

はじめに

| | |
|-----|---|
| 著者 | 石上 靖芳 |
| 雑誌名 | 教育実践高度化専攻成果報告書抄録集 |
| 巻 | 8 |
| ページ | none-none |
| 発行年 | 2018-03 |
| 出版者 | 静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻 |
| URL | http://doi.org/10.14945/00024839 |

はじめに

静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻（教職大学院）の第8期修了生による成果報告書抄録集をお届けします。

本抄録集は、静岡県教育委員会派遣の教員17名（研修等定数による派遣15名、研修支援制度による派遣2名）および学卒院生7名の合計24名の修了生が、2年間にわたり探求してきたアクション・リサーチ（実践的研究）の成果の概要をまとめたものです。

本専攻は、平成21年度に開設され、これまでに150余名の修了生を輩出し、静岡県内の小中高等学校及び特別支援学校をはじめ静岡県教育委員会事務局、静岡県総合教育センター、県内市町教育委員会等において、静岡県の教育を牽引する活躍を見せています。また本専攻は、静岡県内の教育課題に対応すべく、学校組織開発領域、教育方法開発領域、生徒指導支援領域、特別支援教育領域の4つの領域から構成され、幅広く静岡県の教育課題に対応を可能にするとともに、専任教員15名、兼任教員10名の様々な専門分野を背景にもスタッフが指導や助言にあたっています。こうした教育・研究のこれまでの成果が、本年度教員養成評価機構によって実施された認証評価（5年に1度実施される外部評価）において、本専攻は高く評価されました。

さて、折しも昨年度末にこれまでの審議を経て、小学校の新学習指導要領が公示されました。今後移行期間を経て平成32年には完全実施、さらに中学校、高等学校の完全実施と続きます。今回の改定は、「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」「何ができるようになるのか」の視点から改定の基本方針として、「社会に開かれた教育課程」、「資質・能力の一層確実な育成」を推進するためにカリキュラム・マネジメント、主体的・対話的で深い学びの視点が導入されました。これまでの知識習得型の学力観から、実際に社会や状況に応じて活用できる資質・能力を基盤とする学力観に大きく変更の舵が切られました。それともなつて資質・能力を基盤とした授業研究の方法論、校内研修の在り方、カリキュラム・マネジメントを視点とした組織体制、生徒指導・支援の在り方、特別支援教育の在り方など、新学習指導要領の趣旨の実現に向けて大学を始めとする研究機関と教育現場とが一層連携を深め、これらの課題に答えていかなければならない時期が到来しています。

本抄録には、資質・能力を明確にしたカリキュラム開発、小・中連携におけるカリキュラム・マネジメントの開発、資質・能力を明確にした教科間連携の在り方、深い生徒理解と支援の在り方など新学習指導要領の趣旨の実現に向けた課題に取り組んだアクションリサーチ（実践的研究）で大半が構成されています。また、3月3日（土）には、本学共通棟で本抄録に記載された内容の成果発表会が予定されています。一読していただき、忌憚のないご批評、ご意見をいただければ幸甚です。

今後も、修了生が新しい学校づくりを進める新人教員として、あるいは、スクールリーダーとして学修した成果を学校や地域に積極的に還元し、さらなる活躍をすることを期待しています。また、私たち教職大学院スタッフ一同が引き続きサポートしていきたいと考えています。

2018年3月

静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻
（教職大学院）
専攻長 石上靖芳